

2025^{ねん}年9^{がつ}月

歴史 — No. 3 1

けんぱくものしりシート

きん こ ざね ちゃいとおどし に まいどう ぐ そく

金小札茶糸 緋 二枚胴具足



前立
まえたて

兜鉢
かぶとばち

面頬
めんぼお

鞆
しころ

大袖
おおそで

胴
どう

籠手
こて

下散
げさん
(草摺)
くさずり

佩楯
はいだて

臙当
すねあて



きん よろい かぶと
金ピカの 鎧 と 兜 だね!



だれのものかしら?



こちらの 鎧 と 兜 は、江戸時
代の 1664 (寛文4) 年に、盛岡藩
の 3代藩主 (殿様: 在位1664~1692
年) となった南部重信 (1616~1702
年) が用いたもののよ。



よろい かぶと な まえ ぐ そく
鎧 と 兜 の 名前に 具足 と
あるけど、何のこと?



ぐ そく かっちゅう よろいかぶと
具足 というのは 甲冑 (鎧 兜)

のことをさしますが、その中でも
当世具足のことをいいます。当世
具足は 体 をすき間なくおい包
んで、身を守る作りになっており、
兜 や 胴、袖のほか、顔やのどを
守る面頬や、手やうでを守る籠手、
太ももやひざを守る佩楯、すねを
守る臙当などの防具まで、一そ
ろい専用のものを備えています。当
世具足は 戦い方の変化にともな
って室町時代末期に現れ、色々な
鎧 兜 が江戸時代終りまで作られ
ました。当世は「今の世」、具足は
「一式の 鎧 兜」という意味です。

※) 現在、具足は、前立に写真の鳥毛では
なく、トンボをつけて展示しています。



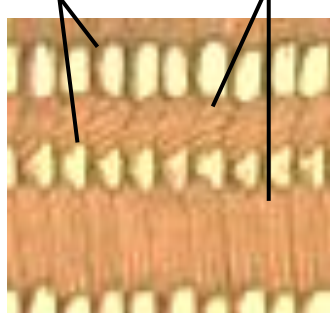
それでは、この具足について見てみましょう。

まず兜に注目です。兜は62枚の鉄板をつなぎ合わせて筋を立て、筋と筋との間が62ある六十二間筋兜です。兜の正面をかざる前立は、藩の具足台帳には「鳥毛」（鳥の羽のことです）と書かれていますが、トンボの前立も伝えられています。日本ではトンボは前へ前へと飛んで、決して後ろへ下がらないことから、勇ましく強い虫として「勝虫」といわれ、勝利を呼ぶ縁起のよい虫として、武具のデザインによく使われました。



■ 胴の一部分

金小札 茶色の緘糸



次に胴や下散、袖を見てみましょう。この具足の名前に見える「金小札」というのは、それらの部分に段になって並んでいる、金色の小札と呼ばれる小さな鉄板のことです。小札には漆をぬり、その上に金をぬっています。この金小札を茶色（樺色ともいいます）の糸で連結しています。連結することを緘すといい、これが具足の名前「金小札茶系緘」になっています。緘すのに用いる糸を緘糸といいます。胴には1429枚の金小札が使われ、前と後ろの部分で左わきでつないだ二枚胴です。



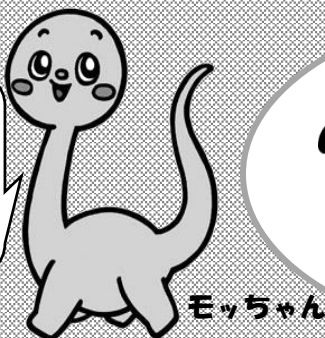
また、佩楯には小札より大きい長方形をした伊予札を、兜の鞆や、面頬の下垂の部分には、一枚板の鉄板の上を切り付けて小札ににせた切付小札を使い、これらにも金をぬり茶色の緘糸で連結しています。さらに、籠手や臍当をかざる鉄製のかざりにも金を使っています。江戸時代前期、盛岡藩では金山からたくさんの金を産出していましたので、それをほこるかのような豪華な装いの鎧兜です。



籠手にはひょうたんの形をしたかざりをつけています。

引用・参考 齋藤里香 2010年 「県博日曜講座 金小札茶系緘二枚胴具足と御宝蔵御具足帳」他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPにてバックナンバー公開中！

けんぱくものしりシート

『金小札茶糸緋二枚胴具足』

2025 年 9 月発行 歴史—No.31

■参考文献

- ・ 齋藤里香 2010 年 「県博日曜講座 金小札茶糸緋二枚胴具足と御宝蔵御具足帳」
- ・ 岩手県立博物館 1981 年 『郷土の甲冑と刀装展—江戸時代を中心として—』
- ・ 岩手県立博物館 1988 年 『北奥の甲冑展—大名具足を中心として—』
- ・ 花巻市博物館 2004 年 『盛岡南部家 20 万石の美』
- ・ 笹間良彦 1988 年 『日本甲冑大圖鑑』
- ・ 笹間良彦 1996 年 『図解日本甲冑事典 新装版』
- ・ 山岸素夫・宮崎眞澄 1998 年 『日本甲冑の基礎知識』